

## 学校努力点テーマ 「タブレットを学習に生かす子どもの育成」

— タブレットの活用場面を明確にした授業づくりを通して —

### 4年 社会科「ごみのしよりと利用」の実践

家庭や学校から出るごみや資源について調べます。ごみと資源の分別体験を通して、たくさんの種類のごみと資源の種類について気づき、それぞれの回収方法への興味関心につなげました。

#### ○ タブレットの活用場面

##### ① 自分の考えをもつ場面

タブレットを利用して、提示されたごみや資源を日常の生活経験からどんな分別をしているのかを疑似体験し、ごみや資源の種類について気付くことを焦点として実践しました。

##### ② 対話をして、考えが深める場面

グループで各自が考えた分別方法について、意見を出し合います。それぞれ種類を分けた理由を説明したり、意見が割れたところは話し合ったりして、ごみや資源の種類が多くあることを共有していきました。

#### ○ 授業の様子（アンダーライン：今後の課題）

授業の始めに、ごみと資源の違いに着目し確認しました。本時は、提示された作業カードを日常生活の中の分別ルールを思い出しながら、タブレットのシンキングツールを利用して、それぞれの観点別に分けました。迷ったときは、回収後を想像しながら予想を立てることで、自分なりの分別方法で予想を立てて分けていきました。（写真①）

そして、グループで各自の考えた分別の仕方を見せ合い、意見が分かれているカードや迷ったカードについて、どちらに分別する方が正しいかを自分なりの理論で説明して、話し合いました。考えの違いを比較して話し合うことで、各自の予想を再考し、深めることができました。（写真②③）

その後、名古屋市の家庭に配布されているガイドを見て、実際の分別方法とグループの分別方法が正しかったかを確認しました。子どもたちは、ごみの種類や資源の分別が細かく示されていることに驚く様子が見受けられました。また、思っていた分別と違った場合も、ガイドに提示された理由に納得し、関心をもつ声も上がっていました。

授業の最後に、タブレットで提示したカードと同様のカードを使って、正しいごみ・資源の分別をしながら黒板に提示したことで、たくさんの種類のごみや資源があることに気づきました。そして、ごみや資源の区分を正しく覚え、その後の処理方法へ興味をもつきっかけとなりました。

タブレットによる話し合い場面では、互いの考えを共有したり、比較したりするには、見せ方で考えの深まりが変わりました。そのため、今後は、提示方法を工夫していきます。



写真①

【各自で分別の疑似体験をする様子】



写真②

【グループで他者との考えを比較する様子】



写真③

【グループで他者との考えを比較する様子】